

先進研究とネットワークで 膠原病に強い北陸に

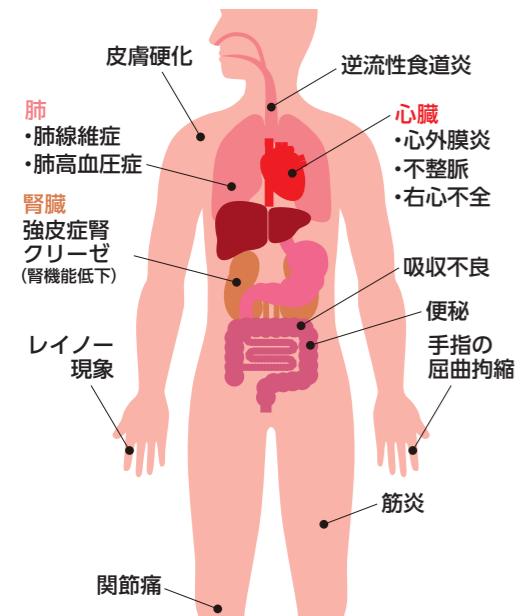


金沢大学医薬保健研究域
医学系副医学系長・皮膚科学教授
金沢大学附属病院 皮膚科 科長
まつした たかし
松下 貴史氏

1999年 金沢大学医学部医学科卒業
2003年 金沢大学皮膚科 医員
2006年 金沢大学大学院医学研究科博士課程修了、
金沢大学皮膚科 助手

2007~2010年 Duke大学免疫学教室 研究員
2010年 金沢大学皮膚科 助教
2013年 金沢大学皮膚科 講師
2020年 金沢大学皮膚科 教授

全身性強皮症の主な症状



根治を見据えた「夢の治療」も さまざまな療法の実現を目指す

膠原病は皮膚や関節など全身に炎症が起きる自己免疫疾患です。中でも皮膚症状が出る全身性強皮症と皮膚筋炎について研究する松下貴史教授は、病気の進行を食い止め、QOL（生活の質）を改善するよりよい診療のため、診断法・治療法の開発に邁進しています。

全身性強皮症の主な症状

自己免疫の異常によって、関節や皮膚、血管などの結合組織に炎症が起き、ときに内臓障害を引き起こすのが膠原病です。関節リウマチがよく知られていますが、我々は皮膚症状が診断の契機になることが多い全身性強皮症と皮膚筋炎を専門としています。全身性強皮症は指先の皮膚から硬くなり、やがて体幹に及び、時々硬くなり、難病といわれています。

全身性強皮症について、我々はB細胞を標的とした新規療法につながる研究を行っています。本来自己抗体を産生するB細胞が、炎症を引き起こすサイトカインを産生して悪さをしている点を明らかにしました。このB細胞を除去する度合いによって4段階の治療法があり、1つは

筋炎

筋炎などを発症させ、命に関わることがあります。国内の患者数は約3万人で、50~60代の女性が中心ですが、若年層や男性もいます。皮膚筋炎は皮膚と筋肉に炎症が起き、皮疹や筋力低下を招きます。いずれも痛みや体の動かしづらさで日常生活に支障をきたし、難病といわれています。

全身性強皮症について、我々はB細胞を標的とした新規療法につながる研究を行っています。本来自己抗体を産生するB細胞が、炎症を引き起こすサイトカインを産生して悪さをしている点を明らかにしました。このB細胞を除去する度合いによって4段階の治療法があり、1つは

院内外との密接な連携で 早期診断、早期治療につなげる

全身性強皮症ではQOLの維持と重症化を防ぐために早期に診断し、適切な治療につなげることが極めて重要です。我々は膠原病における自己抗体の解析に力を入れ、保険診療では調べられない抗体を研究室で測定し、早期診断の手助けをしていました。また我々が明らかにした皮膚筋炎の抗体については、その検査法が2016年に保険適用となりました。

早期治療のためには北陸三県の連施設のみならず、当研究室OBの開業医や診療所の先生方との連携が大切です。ただ、除去率が大きく免疫機能の低下など副作用も強いため、我々は病原性を有するB細胞のみを除去する「選択的B細胞除去療法」の開発に取り組んでいます。また昨今、B細胞を完全に除去してリセッタする治療法(CART療法)が有効であることが分かり、実用化されれば根治も夢ではなくなります。重症度や副作用などを鑑みて患者さんに最適の治療ができるよう、研究を進めていきます。

R-T療法)が有効であることが分かり、実用化されれば根治も夢ではなくなります。重症度や副作用などを鑑みて患者さんに最適の治療ができるよう、研究を進めていきます。

全身性強皮症ではQOLの維持と重症化を防ぐために早期に診断し、適切な治療につなげることが極めて重要です。我々は膠原病における自己抗体の解析に力を入れ、保険診療では調べられない抗体を研究室で測定し、早期診断の手助けをしていました。また我々が明らかにした皮膚筋炎の抗体については、その検査法が2016年に保険適用となりました。

早期治療のためには北陸三県の連施設のみならず、当研究室OBの開業医や診療所の先生方との連携が大切です。ただ、除去率が大きく免疫機能の低下など副作用も強いため、我々は病原性を有するB細胞のみを除去する「選択的B細胞除去療法」の開発に取り組んでいます。また昨今、B細胞を完全に除去してリセッタする治療法(CART療法)が有効であることが分かり、実用化されれば根治も夢ではなくなります。重症度や副作用などを鑑みて患者さんに最適の治療ができるよう、研究を進めていきます。

全身性強皮症ではQOLの維持と重症化を防ぐために早期に診断し、適切な治療につなげることが極めて重要です。我々は膠原病における自己抗体の解析に力を入れ、保険診療では調べられない抗体を研究室で測定し、早期診断の手助けをしていました。また我々が明らかにした皮膚筋炎の抗体については、その検査法が2016年に保険適用となりました。

早期治療のためには北陸三県の連施設のみならず、当研究室OBの開業医や診療所の先生方との連携が大切です。ただ、除去率が大きく免疫機能の低下など副作用も強いため、我々は病原性を有するB細胞のみを除去する「選択的B細胞除去療法」の開発に取り組んでいます。また昨今、B細胞を完全に除去してリセッタする治療法(CART療法)が有効であることが分かり、実用化されれば根治も夢ではなくなります。重症度や副作用などを鑑みて患者さんに最適の治療ができるよう、研究を進めていきます。

全身性強皮症ではQOLの維持と重症化を防ぐために早期に診断し、適切な治療につなげることが極めて重要です。我々は膠原病における自己抗体の解析に力を入れ、保険診療では調べられない抗体を研究室で測定し、早期診断の手助けをしていました。また我々が明らかにした皮膚筋炎の抗体については、その検査法が2016年に保険適用となりました。

早期治療のためには北陸三県の連施設のみならず、当研究室OBの開業医や診療所の先生方との連携が大切です。ただ、除去率が大きく免疫機能の低下など副作用も強いため、我々は病原性を有するB細胞のみを除去する「選択的B細胞除去療法」の開発に取り組んでいます。また昨今、B細胞を完全に除去してリセッタする治療法(CART療法)が有効であることが分かり、実用化されれば根治も夢ではなくなります。重症度や副作用などを鑑みて患者さんに最適の治療ができるよう、研究を進めていきます。

全身性強皮症ではQOLの維持と重症化を防ぐために早期に診断し、適切な治療につなげることが極めて重要です。我々は膠原病における自己抗体の解析に力を入れ、保険診療では調べられない抗体を研究室で測定し、早期診断の手助けをしていました。また我々が明らかにした皮膚筋炎の抗体については、その検査法が2016年に保険適用となりました。

早期治療のためには北陸三県の連施設のみならず、当研究室OBの開業医や診療所の先生方との連携が大切です。ただ、除去率が大きく免疫機能の低下など副作用も強いため、我々は病原性を有するB細胞のみを除去する「選択的B細胞除去療法」の開発に取り組んでいます。また昨今、B細胞を完全に除去してリセッタする治療法(CART療法)が有効であることが分かり、実用化されれば根治も夢ではなくなります。重症度や副作用などを鑑みて患者さんに最適の治療ができるよう、研究を進めていきます。